

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要

1、調査実施日

令和3年5月27日(木)

2、対象

小学第6学年、中学第3学年

3、調査内容

教科に関する調査(国語、算数・数学)
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調
(児童生徒質問紙、学校質問紙)

4、今年度の結果(値は平均正答率%)

校種	市・国	国語	算数・数学
小学校	四條畷市	59	65
	大阪府(公立)	63	70
	全国(公立)	64.7	70.2
中学校	四條畷市	60	53
	大阪府(公立)	62	56
	全国(公立)	64.6	57.2

5、平均正答率(対全国比)の経年変化 (対全国比とは、全国平均正答率を1.00としたときの四條畷市の割合)



6、市の平均正答率が全国平均正答率を上回った主な問題

教科(小・中)	番号	問題概要	全国との差※1
算数(小)	1(5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	+0.6
国語(中)	4四	事前に確かめておいたことについて相手に失礼のないように書く	+0.1

※1 全国との差 = 市の平均正答率 - 全国平均正答率

7、児童生徒質問紙調査結果(特に、全国平均より肯定的回答の割合※2が多かった項目)

	質問内容(質問文の表現は、文字数の関係で、文章の一部を書き換えています。)	全国との差※3
小学校	コンピュータなどのICT機器を使用した授業を、5年生までに、ほぼ毎日または週1回以上受けましたか。	+6.6
	国語の解答時間は十分でしたか?	+6.4
	学校で、ICT機器を使った友だちとの意見交換や調べ学習を、ほぼ毎日または週1回以上行いましたか。	+3.6
中学校	国語の解答時間は十分でしたか?	+15.2
	学校で、ICT機器を使った友だちとの意見交換や調べ学習を、ほぼ毎日または週1回以上行いましたか。	+14.6
	国語授業では目的に応じて、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりしていますか?	+11.6

※2 肯定的回答の割合とは、質問に対して、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した人の割合 ※3 全国との差 = 市の回答率 - 全国平均回答率

8、全体を通して

小中学校とも国語の平均正答率は全国平均には達していないものの、前回より上昇しました。これは、市の学力向上の取り組みや学校での校内研修(特に国語)による成果と言えます。算数・数学は求め方や理由を説明する問題に課題があり、今後、更なる授業改善が必要になります。

児童生徒質問紙では小中学校ともにICTに関わる質問で全国平均を上回る項目がありました。これは、GIGAスクール構想のもと、学校のインターネット環境と学習者用タブレットPCを整備した結果、授業での活用機会が増えたことの成果と考えられます。